

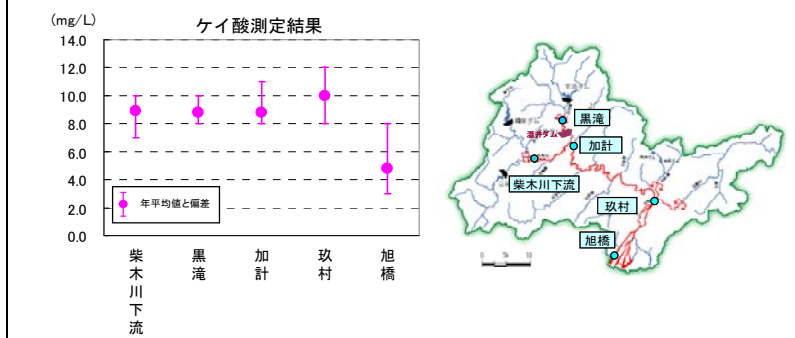
懇談会委員からいただいた御意見と対応

第1回～第7回太田川河川整備懇談会においていただいた主な御意見への対応

懇談会	主な議題	指摘内容	対応方針	対応頁	河川整備計画(原案)(案)
第1回懇談会	太田川の概要	昔100年に1回という雨でも最近では30年に1回程度になっている。常に年によって変わってくるような状況の中で、どこまで行えばよいのかが難しい。	出水や社会状況等の変化を考慮し、必要に応じて見直しを行うこととしている。	1	本計画は計画策定時点の流域における社会経済、自然環境及び河道の状況等を前提として必要と考えられる整備内容を記述しているため、策定後の出水や社会状況等の変化、事業実施後の河川環境に係るモニタリングの結果や新たな知見、技術の進歩等を反映しつつ、Plan(計画)、Do(実施)、Check(点検・評価)、Action(処置・改善)のサイクルを考慮し、必要に応じて見直しを行っていきます。
第1回懇談会	太田川の概要	内水被害への対応方針はどのようにするのか。	内水被害の発生状況等を踏まえ、対策を検討しているところ。	44	太田川下流部においては、堤防整備の進捗とともに沿川の宅地開発による市街化が進行しています。過去、内水被害が発生した地域では、排水ポンプ場の整備が行われてきましたが、近年内水による被害が再び発生しています。支川矢口川合流点付近(広島市安佐北区口田地先)等では、平成17年、平成22年と家屋浸水を伴う内水被害が発生しました。これらの内水被害の発生状況等を踏まえ、平成22年8月に、平成22年7月に太田川流域において発生した内水はん濫に対し今後の対応方針について検討することを目的とし、関係機関から構成される「平成22年7月梅雨前線豪雨内水対策検討会」を設立し対策を検討しているところです。
第1回懇談会	太田川の概要	流域全体で森林管理を考える必要がある。	上下流のつながりの重要性を記載する。	128	流域の観点から太田川を軸とした地域全体の治水、利水、環境の繋がりをより強めるため、上下流間の交流に努めます。
第1回懇談会	太田川の概要	川の利用、川の恵みに関する学習が重要である。	環境学習への支援を行う。	128	自然体験活動等を通して、身近な自然である太田川に接する機会の提供、将来を担う子どもたちへの環境学習への支援等、広く地域住民に太田川に対する関心が高まるような活動を進め、地域一体となって多様な河川環境を保持していきます。
第3回懇談会	太田川水系の特徴と課題(治水に関する審議)	中流部の流況をどのようにしていくのか。	地域のニーズを踏まえ、関係機関との調整に努める。	111	中流部の減水区間における流況の改善については、減水による流況等への影響をモニタリングしてデータを蓄積し、地域のニーズを踏まえて、関係機関との調整に努めます。
第3回懇談会	太田川水系の特徴と課題(治水に関する審議)	中流部の改修はどのように行うのか。	土地利用等を考慮し治水対策を実施する。	95	中流部においては、河道掘削や連続堤としての堤防整備といった、一般的な流下能力向上対策に合わせ、沿川の土地利用等を考慮し、輪中堤整備、宅地嵩上げ等による治水対策を実施します。
第4回懇談会	太田川水系の特徴と課題(利水・環境に関する審議)	ケイ酸が生態系に重要である。	栄養塩に関する物質循環の調査・把握に努める。	111	流域の河川環境を把握するため、関係機関と連携し、栄養塩に関する物質循環の調査・把握に努めます。
第4回懇談会	太田川水系の特徴と課題(利水・環境に関する審議)	生物指標を数値目標でたてた方が良い。	指標とする生物も含め、今後検討することとしたい。	111	河口域における治水対策にあたっては、干潟に代表される感潮区間特有の河川環境を保全するため、学識経験者等から構成される「太田川生態工学研究会」と連携し、干潟の機能等を検証しつつ必要な環境保全措置を実施します。
第4回懇談会	太田川水系の特徴と課題(利水・環境に関する審議)	住民が参加する維持管理として自主防災組織が重要である。	自主防災組織等が災害時に行う水防活動を可能な限り支援する。	124 128	地域住民、自主防災組織、民間団体等が災害時に行う水防活動を可能な限り支援します。 地方公共団体と連携し地域住民を対象とした防災学習の充実を図るとともに、地域の防災体制の強化に協力します。
第5回懇談会	太田川水系河川整備計画の目標及び対処方針について(治水に関する審議)	30年に1回大きな出水が起きており、今の太田川が安全と思っはいけないという現状を市民に解ってもらう必要がある。	地域住民の防災意識向上に資するため、支援、協力を行う。	128	治水に関しては、河川の整備は段階的に進められます。つまり、その時点での治水機能を上回る規模の洪水が発生した場合の被害を軽減するために、「自助・共助・公助」の考え方を基本とした地域住民の防災意識の向上が必要となります。このため、既に公表している浸水想定区域図に加え、広島市や安芸太田町、その他の関連する地方公共団体が作成する太田川流域に関連する洪水ハザードマップに関しては、必要な情報提供や作成支援を行います。また、地方公共団体と連携し地域住民を対象とした防災学習の充実を図るとともに、地域の防災体制の強化に協力します。

第1回～第7回太田川河川整備懇談会においていただいた主な御意見への対応

懇談会	主な議題	指摘内容	対応方針	対応頁	河川整備計画(原案)(案)
第6回懇談会	太田川水系河川整備計画の目標及び対処方針について (利水・環境に関する審議)	正常流量の確保方法は如何に。	関係機関と連携して必要な流量の確保に努める。	111	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努めます。
第6回懇談会	太田川水系河川整備計画の目標及び対処方針について (利水・環境に関する審議)	住民参加型の維持管理が重要である。	地域住民と一層の連携を図る。	119	樹木伐開を行うに当たっては、コストの縮減及び伐採木の地域資源としての有効活用の観点から、地域社会との一層の連携を図ります。
第6回懇談会	太田川水系河川整備計画の目標及び対処方針について (利水・環境に関する審議)	自然をもっと都心に持ち込む、あるいは、太田川の流域、上流も含めた太田川の特徴が都市部でも出てくるようなものにし、太田川の個性をだせるようにすべき。	上下流のつながりの重要性を記載する。	128	流域の観点から太田川を軸とした地域全体の治水、利水、環境の繋がりをより強めるため、上下流間の交流に努めます。
第7回懇談会	洪水調節施設について	洪水調節施設では既存ダムの有効活用も大事と考える。	太田川水系での従来の治水対策手法にとどまらず、幅広く調査・検討を行う。	108	太田川水系全体の治水安全度を、段階的かつ効率よく向上させるためには、河川整備や洪水調節施設の整備など太田川水系での従来の治水対策手法にとどまらず、既存施設の有効活用等を含めた洪水調節機能の増強や流域における流出抑制施設による対策など、さまざまな手法について調査・検討を行うことが重要であり、関係機関等と連携・調整を図りつつ、さまざまな治水対策について幅広く調査・検討を行います。
第7回懇談会	洪水調節施設について	環境に十分配慮する必要がある。	環境にも配慮し、総合的な視点に立って調査・検討する。	108	調査・検討にあたっては、経済性・実現性・確保できる地域の安全度・地域社会への影響・環境への影響等を考慮し、手法の組合せも含めた総合的な視点に立って実施します。

頁	指摘内容	対応方針	河川整備計画(原案)(案)(事前説明時)	河川整備計画(原案)(案)																																										
2等	自然環境の形容詞を「良好な」や「豊かな」と表現しているが、流部が発電のために川の水が導水管でバイパスされ、その影響で中流部の水量が少ない河川であること等から、良好という形容詞は適切ではない。	太田川は人々の河川利用が盛んに行われていることから、「多様な」等の表現に修正する。	太田川には、深い緑に包まれた上流部から干潟が広がる河口まで、 良好な 自然環境が残っています。	太田川には、深い緑に包まれた上流部から干潟が広がる河口まで、 多様な 自然環境が残っています。																																										
8	利活用の説明として中上流部、中流部、下流部の順に記述すれば解りやすい。	太田川の中上流部、中流部、下流部の順に記述する。	<p>中流部はアユ釣りや水遊び、デイキャンプ等に利用され、下流部の広い河川敷は市民の憩いの場や、スポーツ活動をはじめとした各種イベントの開催等に利用されています。下流デルタ域の沿川には、国際平和都市「広島」の象徴である原爆ドームや平和記念公園等が存在し、国内外から多くの人々が訪れています。</p> <p>中上流部の安芸太田町では、平成14年に温井ダムが完成し、その後観光客が増加しているとともに、ダム建設中に開催された「温井ダムまつり」が「龍姫湖まつり」として継承され地域に定着しています。下流部の高瀬堰湛水域等では…</p>	<p>中上流部の安芸太田町では、平成14年に温井ダムが完成し、その後観光客が増加しているとともに、ダム建設中に開催された「温井ダムまつり」が「龍姫湖まつり」として継承され地域に定着しています。下流部の高瀬堰湛水域等ではカヌー教室が開催されており、河川の形状や地域の特徴に応じたさまざまな利活用が行われています。</p> <p>中流部はアユ釣りや水遊び、デイキャンプ等に利用され、下流部の広い河川敷は市民の憩いの場や、スポーツ活動をはじめとした各種イベントの開催等に利用されています。下流デルタ域の沿川には、国際平和都市…</p>																																										
20	「軍都として発展」の記述について表現方法を工夫した方が良い。	発電が広島の近代化を推進した表現に修正する。	太田川の流水により発電された電力は、戦前は軍都として発展してきた広島を支えるとともに、戦後の復興にも寄与しました。	太田川の流水により発電された電力は、 広島近代化の推進を支えてきました。																																										
59	水質はBODのみで状況を把握できない。他の物質濃度についても記載すべき。	物質循環にケイ酸のグラフを追加する。	—	<p>太田川河川事務所では、太田川から広島湾へ供給される栄養塩の量を把握するため、ケイ酸等の測定を行っています。</p> 																																										
81	太田川では河川管理施設が多いため、老朽化等の対応をしっかりと書くべき。	目標の背景における老朽化対応の記載を充実させるとともに、他の頁においても維持管理の中での記載順を上位にする。	さらに、洪水を安全に流下させるため、堤防護岸の空洞化や水門等の施設の老朽化への対応が課題となっています。	太田川では、設置から長期間を経過した河川管理施設が多く存在し、今後、これらの施設数の増加が見込まれており、構造物の老朽化対策が大きな課題となっています。大芝水門、祇園水門は完成から40年以上経過し老朽化が進むとともに、潮位変動の影響をうける祇園水門では、扉体内部の発錆や腐食の拡大が確認されています。また、太田川放水路及び市内派川の堤防は、常時潮位変動の影響を受け、護岸裏の盛土材の吸い出し等により護岸の空洞化が確認されています。このため、河川管理施設が本来の機能を発揮できるよう状態に応じた対策を講じ、良好な状態を維持することが重要です。																																										
110	整備手順の表については、平成23年から始まっていることが解るようにすること。	平成23年から表が始まっていることが解るようにする。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>整備箇所</th> <th>主な整備内容</th> <th>河川整備計画期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">太田川</td> <td>下流デルタ域 堤防整備、高瀬堤防整備 河道掘削</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>下流部 堤防整備、河道掘削</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>中流部 堤防整備、河道掘削、 橋中堤整備、宅地嵩上げ</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>大芝・祇園水門 検討、改築</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>三徳川</td> <td>堤防整備、河道掘削</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>横谷川</td> <td>堤防整備、河道掘削</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>古川</td> <td>堤防整備</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table>	整備箇所	主な整備内容	河川整備計画期間	太田川	下流デルタ域 堤防整備、高瀬堤防整備 河道掘削	→	下流部 堤防整備、河道掘削	→	中流部 堤防整備、河道掘削、 橋中堤整備、宅地嵩上げ	→	大芝・祇園水門 検討、改築	→	三徳川	堤防整備、河道掘削	→	横谷川	堤防整備、河道掘削	→	古川	堤防整備	→	<table border="1"> <thead> <tr> <th>整備箇所</th> <th>主な整備内容</th> <th>河川整備計画期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">太田川</td> <td>下流デルタ域 堤防整備、高瀬堤防整備 河道掘削</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>下流部 堤防整備、河道掘削</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>中流部 堤防整備、河道掘削、 橋中堤整備、宅地嵩上げ</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>大芝・祇園水門 検討、改築</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>三徳川</td> <td>堤防整備、河道掘削</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>横谷川</td> <td>堤防整備、河道掘削</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>古川</td> <td>堤防整備</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 整備手順は平成23年度より示しています。 注) 表中の破線部は、下流への流量負荷が生じない範囲で実施します。</p>	整備箇所	主な整備内容	河川整備計画期間	太田川	下流デルタ域 堤防整備、高瀬堤防整備 河道掘削	→	下流部 堤防整備、河道掘削	→	中流部 堤防整備、河道掘削、 橋中堤整備、宅地嵩上げ	→	大芝・祇園水門 検討、改築	→	三徳川	堤防整備、河道掘削	→	横谷川	堤防整備、河道掘削	→	古川	堤防整備	→
整備箇所	主な整備内容	河川整備計画期間																																												
太田川	下流デルタ域 堤防整備、高瀬堤防整備 河道掘削	→																																												
	下流部 堤防整備、河道掘削	→																																												
	中流部 堤防整備、河道掘削、 橋中堤整備、宅地嵩上げ	→																																												
	大芝・祇園水門 検討、改築	→																																												
三徳川	堤防整備、河道掘削	→																																												
横谷川	堤防整備、河道掘削	→																																												
古川	堤防整備	→																																												
整備箇所	主な整備内容	河川整備計画期間																																												
太田川	下流デルタ域 堤防整備、高瀬堤防整備 河道掘削	→																																												
	下流部 堤防整備、河道掘削	→																																												
	中流部 堤防整備、河道掘削、 橋中堤整備、宅地嵩上げ	→																																												
	大芝・祇園水門 検討、改築	→																																												
三徳川	堤防整備、河道掘削	→																																												
横谷川	堤防整備、河道掘削	→																																												
古川	堤防整備	→																																												
111	環境モニタリングには基本計画に出てくる生物指標を種名で入れた方が対象が解りやすく良い。	指標とする生物も含め、今後検討することとしたい。	—	河口域における治水対策にあたっては、干潟に代表される感潮区間特有の河川環境を保全するため、学識経験者等から構成される「太田川生態工学研究会」と連携し、干潟の機能等を検証しつつ必要な環境保全措置を実施します。																																										
121	デルタ地域における不法繫留が河口域の生物の多様性に与える影響を述べるべき。	不法繫留と河口域の生物の多様性への関連を評価することは現状では難しいため今後の課題としたい。	—	—																																										

原案について事前にいただいた御意見への対応

頁	指摘内容	対応方針	河川整備計画(原案)(案)(事前説明時)	河川整備計画(原案)(案)
123	住民も高度な映像機器を有していることから、浸水被害時に住民の記録した映像を活用し洪水等の検証に活用することが出来る。	住民等からのデータを活用するよう追記します。	—	河川愛護モニター等から提供された情報を河川の維持管理に活用します。
128	太田川の上下流交流を推進し、人々の川に対する意識を高めてほしい。(大井委員) 山が荒れると洪水時に流木が流れ、せきあげによる被害も想定される。山林の所有者に山林整備を促すことを記述すべき。国の整備計画に記述することにより、県、市も対応していく必要性を感じるであろう。(中越委員) 森林の保水力は重要。落葉樹の森では落ち葉の層が厚いため水の保水力が高い。落葉樹森林整備が重要(河合委員)	上下流のつながりの重要性を記載する。	6.7 河川に対する意識の向上のための啓発活動	6.7 流域における意識の向上 さらに、流域の観点から太田川を軸とした地域全体の治水、利水、環境の繋がりをより強めるため、上下流間の交流に努めます。
128	地方公共団体と連携して地域住民の防災意識を向上させる必要がある。	地方公共団体と連携して地域住民の防災体制の強化に協力するよう修正する。	治水に関しては、河川の整備は段階的に進められます。つまり、その時点での治水機能を上回る規模の洪水が発生した場合の被害を軽減するために、地域住民の防災意識の向上が必要となります。このため、既に公表している浸水想定区域図に加え、広島市や安芸太田町、その他の関連する地方公共団体が作成する太田川流域に関連する洪水ハザードマップに関しては、必要な情報提供や作成支援を行います。また、地域住民を対象とした防災学習の充実を図ります。	治水に関しては、河川の整備は段階的に進められます。つまり、その時点での治水機能を上回る規模の洪水が発生した場合の被害を軽減するために、「自助、共助、公助」の考え方を基本とした地域住民の防災意識の向上が必要となります。このため、既に公表している浸水想定区域図に加え、広島市や安芸太田町、その他の関連する地方公共団体が作成する太田川流域に関連する洪水ハザードマップに関しては、必要な情報提供や作成支援を行います。また、地方公共団体と連携し地域住民を対象とした防災学習の充実を図るとともに、地域の防災体制の強化に協力します。
128	子供達が川と親しむことのできる河道を形成することが重要(河合委員)	自然環境を活かした河道を形成・保全することを追記する。	太田川の優れた自然環境を活用できるような水辺空間の整備を実施するとともに、自然体験活動等を通して、身近な自然である太田川に接する機会の提供、将来を担う子どもたちへの環境学習への支援等、広く地域住民に太田川に対する関心が高まるような活動を進め、地域一体となって良好な河川環境を保持していきます。	太田川の自然環境を活かした河道を形成・保全するとともに、自然体験活動等を通して、身近な自然である太田川に接する機会の提供、将来を担う子どもたちへの環境学習への支援等、広く地域住民に太田川に対する関心が高まるような活動を進め、地域一体となって多様な河川環境を保持していきます。
128	太田川を場に野外教育、環境ボランティアの実績のある団体を(例えば……)のように入れてはどうか	個別の団体名を計画に記載するのは、公平性に欠けると考えるため、原案の通りとしたい。	—	—
—	治水または洪水についての全般的意見。 「太田川水系河川整備基本方針」では、基本高水のピーク流量を玖村地点で12,000m ³ /sとし、このうち流域内の洪水調節施設により4,000m ³ /sを調節し、河道への配分を8,000m ³ /sとすることになっている。 今回の河川整備計画(原案)では、河道の配分流量については多く書かれているが、洪水調節施設による流量についてはほとんど言及されていないように思う。 整備基本方針があり、それに対応して整備計画が作成されると考える。したがって、洪水調節施設による4,000m ³ /sの流量を、この整備計画の中において、どのように位置づけ、どのように対応するかを、現有の施設との関係も考慮して、明記する必要があるのではないかと。 「安全・安心な暮らしを守る」ためには、8,000m ³ /sよりは、基本高水の12,000m ³ /sをもっと意識して案を作成するのがよいのではないかとと思う。	河川整備計画の位置付けは、河川整備基本方針の達成に向け段階的に河川整備を実施するため、河川整備の目標、河川整備の実施内容を定めるもの。太田川水系では、各河川で被害等が生じている戦後最大洪水に対応できるよう整備することを目標にするため、効果の発現の早い河道から整備することになっている。 なお、洪水調節施設については、P108に記載してあるため、原案のとおりとしたい。	—	—